

授業科目名	音楽と社会	担当形態	講義		
		開講学期	秋学期		
担当教員	アルバレス・ホセ・サンティアゴ	単位	2	年次	2

＝授業のテーマ及び到達目標＝

音楽と社会との関わりについて、学ぶ科目です。「音楽」に軸足を置くのか、「社会」に軸足を置くのかで、その方向性も変わってきますが、本講では、「人の生の営みの中で音楽を捉える」という立場で講じます。

人の集まりである社会に軸足を置いて、その変化と音楽との関わりを、通時的視点を中心に、共時的視点も加味して、観ていきます。

社会の変化につれて、音楽はどう変化したのか。また、何が変わらなかったのかを、具体的作品にもあたり、検証することを到達目標とします。

＝履修の条件と学習の方法＝

真摯な態度で、音楽を学び享受できる学生諸君の受講を求めます。大学生が取るべき受講態度を必ず実践することを求めます。

高校卒業程度の世界史(特に文化史)の時代区分の知識を前提とします。ノートは、自分なりの方法で、しっかりとまとめ復習にも役立ててください。

＝授業の概要＝

音楽と社会の関わりを、通時的・共時的に概観し把握した後に、人と人との繋がりの変化をとらえ、それを社会の変化としての時代様式と関連させて把握し、さらに具体例をもって、音楽と社会の関係を理解する。

＝授業計画＝

- 1回 ガイダンス：講義の目標や内容の確認及びアンケート実施
- 2回 音楽と人々(社会)との関わり (1) <変遷>
- 3回 音楽と人々(社会)との関わり (2) <分類>
- 4回 人と人との繋がりの変化 (1)
- 5回 人と人との繋がりの変化 (2)
- 6回 人と人との繋がりの変化 (3)
- 7回 人と人との繋がりの変化 (4)
- 8回 人と人との繋がりの変化 (5)
- 9回 人と人との繋がりの変化 (6)
- 10回 参加を求める音楽／偶然性の音楽
- 11回 舟歌と子守歌 (感性の背景にあるもの)
- 12回 クリスマスとパストラレーレとシチリアーノ
- 13回 予備
- 14回 まとめ
- 15回 テスト (1)
- 16回 テスト (2)

概ねの予定です。学生諸君の理解度により、進度に影響が出ることがあります。

＝テキスト(必携)＝

必要とあらば、プリントを配ります。

=参考書・参考資料（必携）=

必要とあらば、プリントを配ります。

=成績評価の方法と評価の基準=

評価は、周到な予習・復習に基づく能動的な授業への参加がなされているか否か、また、その結果としての習熟度がどうであったかで行ないます。つまり、テスト・レポートの成績及び平常点、出席状況を勘案して評価します。

テストは、二部構成で実施します。この2日間の試験を必ず受験してください。

=その他=